

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	0572612877		
法人名	株式会社 大曲仙北介護支援事業所		
事業所名	グループホームふれあい (のびのび館)		
所在地	秋田県仙北市田沢湖神代字街道南 237		
自己評価作成日	平成30年6月30日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.akita-longlife.net/evaluation/">http://www.akita-longlife.net/evaluation/</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	特定非営利活動法人 秋田マイケアプラン研究会		
所在地	秋田県秋田市下北手松崎字前谷地142-1		
訪問調査日	平成30年7月20日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

遠くに山々を見渡す自然豊かな田園に囲まれた場所に、2ユニットの当施設があります。利用者様にとっては馴染みの環境であり、ゆっくりとした時間の中で過ごしていただくことができます。また、施設の畑では、野菜や花等を利用者様と一緒に育て、畑作業で体を動かし、収穫した野菜を味わいながら、季節を感じて頂いています。ご家族様や地域の皆様との交流の場として、施設での様々な行事への参加を通して、交流を深め、ご理解を頂けるように努めています。ご利用者様が安心して過ごしていただけるよう、健康管理を一番に考え、医療との連携を図り、状態の安定を図り、「自分らしく 心豊かに暮らす」をモットーに支援しています。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

1ユニットを増設して新築移転しましたが、心配した利用者の混乱もなく、ユニット間の職員の連携も良く落ち着いた生活を送ることができています。敷地内の環境づくりに協力してくれる地域の方もおり、管理者や職員の話から円滑な関係づくりに努めている様子が窺えます。今後更に地域と密接な関係を構築し、地域に必要なとされるグループホームを目指して努力しています。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~53で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
54	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	61	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
55	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	62	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
56	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	63	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
57	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	64	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
58	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
60	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

## 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者と管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	利用者様が地域の中で安心して暮らしていただけるように、「自分らしく心豊かに暮らす」を理念に掲げ、玄関や、施設内に提示し常に意識し支援できるようにしている。	理念に則り利用者本位の生活が送れるよう、管理者がケアにあたっての心がまえを折に触れて職員に伝え、目標とする支援の実践に繋げています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 2018/6/30	敬老会や夏祭り等の行事には地域の方々に参加を予定し、利用者様や家族様等との交流を図っている。近隣住民の皆様とも、部落の総会や行事に参加(職員)させていただき、交流と信頼関係の構築に努めている。今後は、入居者様も一緒に参加できる内容にも、取り組みたい。	現在地に移設してから地域の方が気さくに声をかけてくれたり、運営推進会議を通じて積極的に協力を申し出てくれる等、ホームへの理解が得られており、また、敷地は広く、地域の避難場所として提供可能なことも併せて情報発信しながら地域交流の推進ができるよう努めています。	
3		○事業所の力を活かした地域とのつながり 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に伝え、地域貢献している	施設の行事等に参加頂きながら、地域の方との交流の深め、その中で、施設の紹介をしたり、認知症に関する相談を受けたり、情報交換したりしながら、認知症に関する理解を深めていただく努力を続けたい。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	入居者状況、行事・運営状況等報告を行いながら、入居者様、ご家族、地域住民・行政等の皆様からのご意見やご要望をいただき、サービスの向上に努めている。	地域の方からは地域の情報や提案が出されており、今後のサービスの向上に活かせるよう検討しています。	行政、家族に意見を引き出す働きかけを工夫すると共に、地域の理解が得られていることから情報発信しながら地域交流や災害対策について会議を活かした取り組みを期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域包括支援センター、福祉事務所、行政機関等、入居者様のかかわりと共に、施設の内容等、電話や訪問等により、常に密に連絡できる体制をとって頂き、協力を頂いている。	ホームの運営に関する相談や連絡を密にし、行政の理解と協力が得られるように積極的に協力関係を築いています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修会に参加、また、勉強会等にて正しく理解するよう努めている。施設においては、夜間以外は施錠せず解放し、見守りを行っている。運営推進会議の中で、多方面の方々の意見を伺い、身体拘束適正化について、取り組んでいく。	現在身体拘束は行われておりません。身体拘束廃止に関する指針を新たに作成し、新任職員を含めて全員が理解して取り組めるように努めています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修会に参加、また、勉強会等にて正しく理解するよう努めている。職員間での見過ごしが無いように、話しやすい環境を作るよう努め、虐待防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修等への参加の機会を設け、制度等について理解を深めるよう努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時施設の概要、サービス内容・対応等を書面や口頭で充分説明し、理解と納得を頂くように努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時・電話等、お便りや写真等にて近況を報告している。その際、ご意見・ご要望等もお聞きしている。	頻回に訪れる家族は少ないものの、利用料の支払いに訪れた時や受診後の連絡の際に近況を報告して要望を引き出すようにしており、出された意見に対応できるよう取り組んでいます。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の職員会議時に、運営や日々のケアに関する事等、それぞれの意見を言い合える場を設けている。また、管理者は月初の管理者会議に出席し、その意見や提案が出来る体制にある。さらに、職員の意見の反映の為、個別面接を行っている。	ミーティング等で出された意見をあらためて職員間で検討する機会を設けたり、管理者が職員の思いを感じとることもあり、サービスの向上や運営に反映させています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	就業規則により就業内容が位置付けられているが、希望休等を聞きシフト作成を行い勤務の柔軟性を持たせている。また、資格修得後は給与に反映され、さらに個別面談を行い、職員要望を聞き、就業意欲の向上に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、代表者自身や管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修の種別や年数等を考慮しながら、参加できる体制を整え一人ひとりが学ぶ時間を持つようにし意欲の向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、代表者自身や管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	主にグループホーム連絡会を通じて会主催の研修会等に参加し交流する機会を持つようになっている。仙北市の多職種研修会等、特に市内の研修会や会合に参加し、情報交換をしている。		
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	面接時に本人・家族、関係機関より、情報収集を図り対応できるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面接時に家族の意向を聞きながら状況、情報収集を図り対応できるよう努めている。		
17		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活歴や現在の状態等会話の中で、色々教えて頂きながら、日常生活の中に、馴染みの言葉や風景をはさみながら、家庭的な雰囲気の中で関係の構築に努めている。		
18		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の状況報告や要望、希望を伺い一緒に考えるたり、一緒に悩んだりしながら、信頼関係を築き、家族・施設が本人を支えられる様に努めている。		
19	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの場所や友人との交流を家族の協力も得ながら、関係が途切れないよう支援に努めている。	行きつけの美容院には家族が連れて行ってくれています。新規の利用者が多いことから、情報を収集しながら馴染みの関係づくりに努めています。	
20		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	相性や関係の把握に努め、座席等の工夫をしたり、トラブルの防止のため、リーダー的な存在の方の様子を見守り状況に応じて声掛けをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要な方との関わりの継続に努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
22	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人や家族の意見や希望を聞きながら、意向の把握に努めその都度、相談を重ねている。	日常会話や普段の生活の中で気付いたことを記録すると共に申し送りで伝えて情報を共有し、見直しに繋げています。	
23		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、生きがい、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	自宅で使い慣れた家具等の配置で、居室を馴染みある環境にしたり、日常の会話の中から、これまでの生活の把握、また、情報の把握に努めている。		
24		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者の目の届く所で、見守り、声掛けを行いながら、生活の様子を把握している。また、行動や食事量、排泄パターン等を記録し申し送りで、職員が把握できるように努めている。		
25	(10)	○チームでつくる介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	認知症の進行が著しい方について家族へ状況説明し、希望・今後の支援について要望等を聞いている。定期的に、職員全員出席でケアカンファレンスを行いモニタリングを通じ、話し合いを行い介護計画を作成している。	介護計画に基づいたケアと評価を行いながら気付いたことも併せて記録し、検討会で再度意見を出し合って介護計画を作成しています。	
26		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	入居者の状況を昼、夜、色別して記録をしている、身体チェック表や、申し送り記録をファイルし状況の把握に努め、職員の連絡帳も活用し職員全員が把握できる体制をとっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	入居者が気分転換できる時間を含め、地域との交流の企画を話し合い、検討している。		
28	(11)	○かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等の利用支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用契約時にかかりつけ医について説明し了解を得、受診時の体制を整えている、個々の状態や家族の希望に沿う医療機関を受診している方もいる。入居者の状態報告を行い、指示やアドバイスを頂いている。	医療機関の少ない地域であり、協力医に変更した方もおりますが、緊急時に対応していただける医師もおり、適切な支援が行われています。	
29		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常時、利用者の体調チェック、会話等行っている、受診時に相談をする機会が多い。		
30		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関、家族との話をする機会を調整しながら状態の把握に努めている。		
31	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	かかりつけ医の意見や職員間の話し合い等踏まえ、家族へ状態報告時に状態の変化に応じてホームの対応や支援を説明し今後も相談や、検討を行って行きたい。	重度化に対応する指針を見直し、医療連携の体制も整っています。現在対象者はいないものの職員の不安が大きく、利用者の状態変化に応じた対応を検討しています。	
32		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の実践訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急救命講習を通して初期の対応に備えている。		
33	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に避難訓練を行い災害への意識を高めている。地域の方々へも声がけし、一緒に参加頂いている。	避難口はスロープ、屋根が設けられ、雨、風、雪除け対策もされ、敷地内は全て舗装されています。備蓄品等は法人本部に保管しており、ホームにはないため、有事の際に対応できないのではとの不安を抱えています。	必要な備蓄品等のホームでの保管と共に、近隣の理解が得られていることから、利用者の状況を踏まえた具体的な訓練及び協力体制の構築に取り組まれることを期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
34	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の様子を伺いながら、本人の思いの伝達や表現ができるよう言葉使いに注意し声掛けや説明、周囲の雰囲気作りに配慮している。	礼を欠かないよう呼び方に気をつけ、声のトーンにも配慮しています。各居室の排泄用品の保管にも配慮がみられます。	
35		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の話を傾聴した時に話を引き出す様に工夫し努めている。		
36		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の趣味や好きな事をやってもらえる様に、それぞれ楽しく過ごせる様に努めている。		
37		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	身だしなみが乱れている際には、その都度さりげなく声かけや介助している。定期的に理容店の出張があり、カット、顔そり、毛染め等希望に合わせて行っている。本人の希望により、馴染みの美容院の利用を希望される方は、家族が同伴し利用する。		
38	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	常に台所に入出入り出来るため、台所に来られては、一緒に調理や、盛り付け、片付け等行っている。	たくさんの野菜を育て、食べる楽しみに繋がっています。介助の必要な利用者には職員が言葉をかけながらサポートし、和やかな食事風景が見られました。	
39		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう状況を把握し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	職員全員で、常に把握できる様チェック表を用いている、また、声かけを行い摂取してもらえる様に努めている。		
40		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、声かけや誘導、確認を行っている、義歯洗浄の介助が必要な方には介助し清潔保持に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄の習慣を把握しさりげない声がけや誘導に気を配っている。失禁後の交換時は、気持ちとプライバシーに十分配慮して介助を行っている。	その人の状態に応じたトイレ誘導をして失禁をできる限り防ぎ、排泄用品にかかる費用にも配慮しながら一人ひとりに合った支援を行っています。	
42		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事量や水分摂取の確認し、飲食物の工夫を状況に応じて行っている。		
43	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	一人ひとりの希望に沿うよう配慮している。自分だけの楽しみな時間、リラックス出来る時間となるよう努めている。体調によって控えた方が良い時には声がけの工夫をした対応に努めている。浴室について、車椅子の方でも対応出来るように、リフト式の浴槽にしている。利用者・介護者も共に負担の軽減につながっている。	週2回の入浴の他、毎日陰部洗浄を行っています。それぞれのユニットの浴槽設備が異なっており、ユニット間で便宜を図ることができます。職員の介助負担も軽減し、利用者も安心してゆっくり入浴できています。拒否する人にはその時の気持ちを大切にタイミングをみて入浴していただく等、工夫しています。	
44		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活の中で適度な休息の促しや、夜間の安眠に繋がる適度な疲労感を感じられるように努めている、睡眠状態に変化が見られてきた場合は、かかりつけ医等へ報告している。		
45		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解に努めており、医療関係者の活用や服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬に関する説明を受けたりした記録を各個人のファイルにとじ確認している。受診記録に医師や看護師からの注意点を確実に記入するようにしている。		
46		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者一人ひとりの得意な分野をいかし、台所仕事、洗濯物干したり、たたんだりしている、自室の掃除を一緒に行ったり自発的に行っている。		
47	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節に合わせ、見学地へ出かけたり、スーパーへの買い物へ職員と出かけられたりしている。家族と相談をしながら、いっしょに出かけられる機会を作るよう努めている。また家族とともに、買い物や外食等に出掛けられる方もいる。	季節に応じてドライブ、外食を企画し、車椅子の方も一緒に出かけています。国道沿いで車の往来には注意が必要ですが、周辺は畑や田んぼが広がり、遠くの山々を眺めながら敷地内を散歩しています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人、家族との話し合いの下、立て替え方式で買い物等で自由にお金を使うことができるようにしている。		
49		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙や電話を自由にやりとりできる様にしている。対応が困難な方には仲介をしている。携帯電話の使用は、他の利用者の迷惑にならない程度で、自由になっている。		
50	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、臭い、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関等に季節の花を飾ったり、台所は解放され調理の匂いや音の空気が流れている、空調設備の調整等で年中快適な温度で過ごす事が出来る。ホールには、季節感が味わえるよう季節ごとの飾りつけを行い、窓から花の成長がみられるよう花のプランターをおいて楽しんでもらっている。	玄関を挟んで2ユニットが建ち、新聞を届けたり、お互いのレクリエーションに参加したりと自由に往来できる造りになっています。敷地内は全て舗装されており、車椅子やシルバーカーでも安全に通行できます。	
51		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	自室や、ホールのソファに座ったりしながら、思い思いに過ごす事が出来るようにしている。		
52	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人・家族の希望を取り入れ、馴染みの生活用品や、寝具、その他好みの物品を使用されている。	居室内は整然と片付いており、家族の写真を飾る等して安心して過ごせるよう配慮しています。	
53		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設全体が空調設備で管理がされ、常に快適な温度湿度を保っている。施設内は、バリアフリーで、手すりの設置、緊急の呼び出しボタンをトイレ・浴室に設置し、安全を保っている。また、事務室、調理室、会議室、浴室、洗濯室、物置等は、施錠することが出来る。危険物(刃物、薬品、重要書類等)に利用者が誤って触れない様配慮されている。		